

解説「日常生活で受ける放射線と人体影響」

私たちは、有史以前から、常に自然界からの放射線を受けて生活してきました。例えば、大地には、ウランやラジウムをはじめ多くの放射性物質が含まれていて、絶え間なく放射線を放出していますし、空からは絶え間なく宇宙線と呼ばれる放射線が降り注いでいます。また、空気中や食物中にも放射性物質は含まれており、吸収や食事によってそれらを取り込むことで、体の内部から放射線を受けることになります。このように、もともと自然界に存在している放射線を、自然放射線とよんでいます。

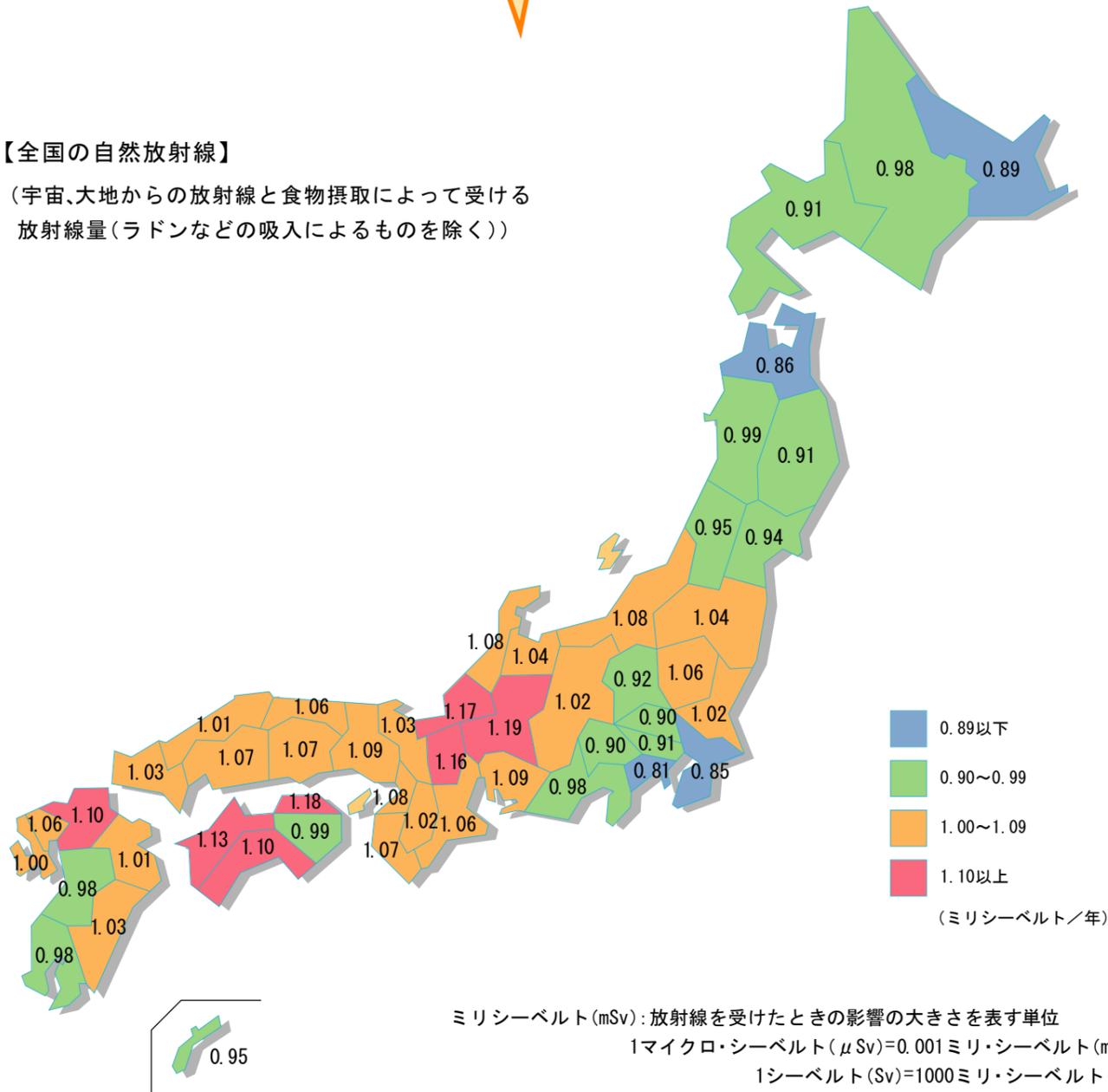
自然放射線のレベルは地域によっても異なり、わが国でも、0.9~1.2ミリシーベルト/年(900~1200マイクロシーベルト/年、ラドン(気体状の放射性物質)などの吸入による影響を除いた値)程度のばらつきがあります。

放射線を一度に大量に浴びると人体に影響を与えますが、自然放射線と私たちはずっと共存してきましたし、このような地域による放射線の差が健康上無視できるものであることは、私たちの経験からも明らかです。

なお、自然界から受ける放射線とは別に、私たちは医療(X線検診など)でも放射線を受けています。

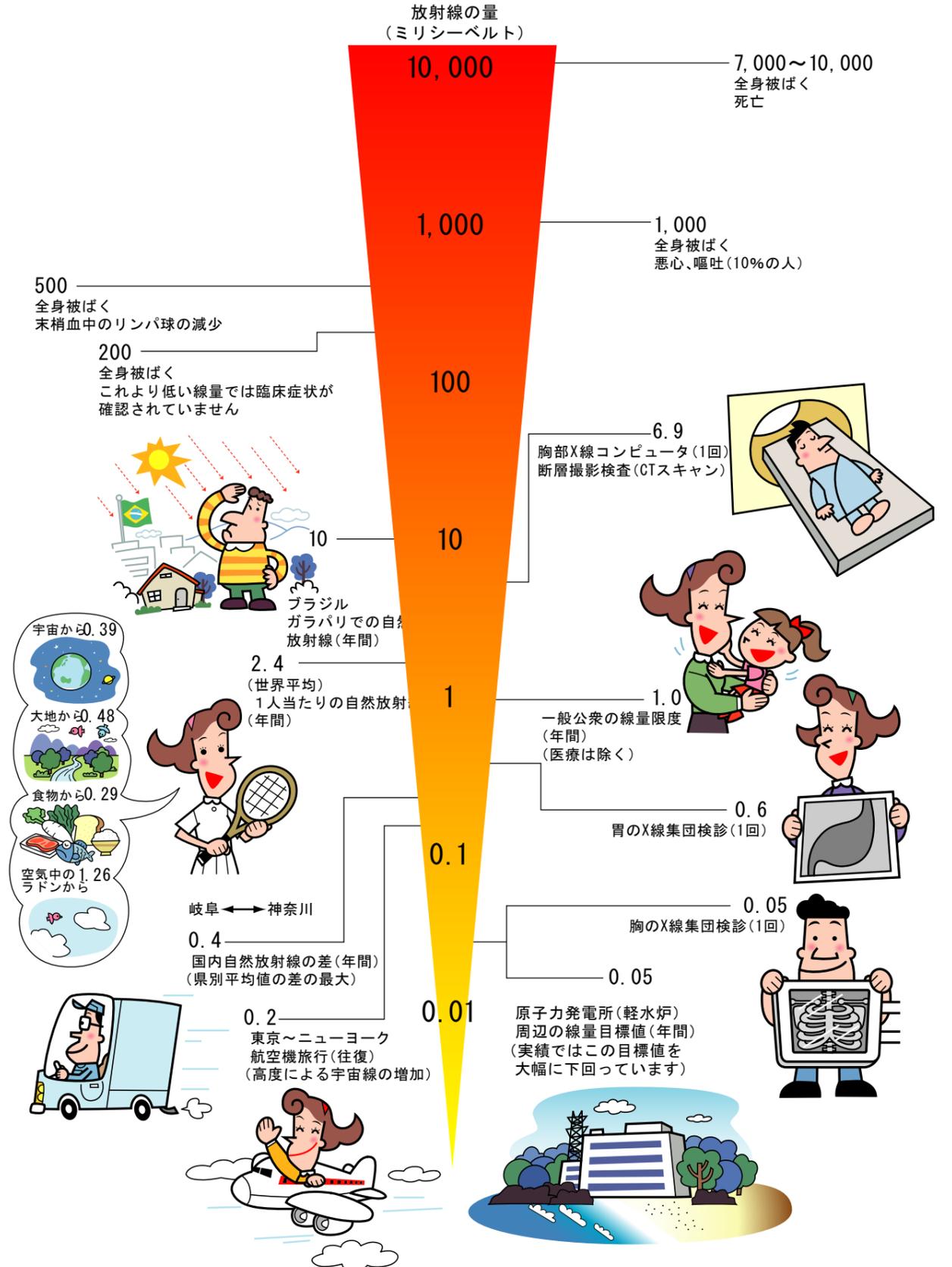
【全国自然放射線】

(宇宙、大地からの放射線と食物摂取によって受ける放射線量(ラドンなどの吸入によるものを除く))



(原子力2005(放射線医学総合研究所調べ(1988年)))

【日常生活と放射線】



(注1)本図中の数値は実効線量当量または実効線量で記載。
(注2)自然放射線の量については、呼吸によるラドンの効果を含めた場合の値。

(原子力2005(放射線医学総合研究所調べ等による))